

福井ふるさと学びの森あわらエリア第4弾

「里山の間伐材を利用した薪作りを体験しよう！」

- 1 日時：平成27年10月10日（土） 10:00～11:30
- 2 場所：福井ふるさと学びの森あわらエリア 波松民有林
- 3 参加者：一般県民28名（うち小学生6名、中学生1名、高校生1名）
- 4 指導者：里山里海湖研究所 ふるさと研究員 河田 勝治さん
(あわらの自然を愛する会)
- 5 内容：

今回の福井ふるさと学びの森あわらエリアのイベントは、波松地区の民有林において、間伐材を使った薪割り体験、ほだ木作り体験を実施しました。

まずは、森の話。河田さんから針葉樹と広葉樹の違いについて説明を受けました。



その後、森へ入り薪割り体験です。あらかじめ玉切りしてある木をまさかりを使って割ります。

河田さんの実演の後、まずはお父さんたちが挑戦。見ていると簡単に割れそうですが、初めて体験するお父さん方は悪戦苦闘されていました。続いて中学生の男の子がチャレンジ。手にするものはじめてのまさかりで、その重さにかなり苦労していました。



まさかりを扱うことができない小学生たちは、手斧で薪割りに挑戦。こちらも思うようには割れずに、何度も挑戦しました。割れたときには周囲から拍手がわいていました。



さらに、割った薪や枝などを集めて束にする作業。あわらの自然を愛する会の皆さんが、マンツーマンで縄の結び方を指導してくださいました。こちらを見るのとやるのとでは大違い。会員さんたちの手によると魔法のようにきれいに束ねられていきますが、参加した子供たちが同じようにしても、なかなか結び目にさえなりません。こうした結び方も、先人から伝わっている里の知恵ですね。



こうして、昔ながらの方法で薪割り体験をした後は、里山里海湖研究所が里山の整備のために貸し出している薪割り機の実演も行いました。こちらは、レバー1本で簡単に薪割りができるということで、小学生やいっしょに参加したお母さんも体験することができました。苦労してまさかりで薪を割ったお父さん方は苦笑いといったところでしょうか。



今回の参加者の中には、春に行ったオミナエシの移植イベントにも参加して下さった方が2組ありました。自分で移植したオミナエシが大きく育ち、独特のにおいを放ちながらその存在をアピール(?)しているのを目の当たりにして、感激しているようでした。最後に、さらに群生が増えるように、オミナエシの種を参加者全員がまきました。

里山の秋を十分に満喫できる一日となりました。今年、東京から福井市に引っ越してこられたという家族の方も参加され、都会では味わうことのできない自然とその恵みを存分に味わっていただけたと思います。今後さらに多くの県民の皆様、里山里海湖の魅力を味わっていただけるような機会を創出していきたいと考えています。

《参加者の声》

- ・まきわりが楽しかった。
- ・薪を割ったり、道中栗を拾ったり、アケビを採ったりできて楽しかった。
- ・（子供に対して）自然の中で、自分の目で見て、肌で体感させられてよかった。
- ・薪割りなど、あまり体験できないことができてよかった。